

新宮山彦ぐるーぷ第1919回

前鬼の里への古道・牛抱坂(牛抱道)の調査と

南奥駆道(行仙宿)〜21世紀の森(間)の点検巡視など

◇実施日；2017年03月18日(土)〜19日(日) 晴

◇参加者；梶野照雄、山口泰宏(1泊2日)、川島 功、橋本 梓、

沖崎吉信、児嶋道夫、生熊敏男・千満子、畑林清子、

上村洋司、竹中卓治。 11名。

前鬼の里への古道・牛抱坂(牛抱道)の調査

◇実施日；03月18日(土) 晴

◇参加者；梶野照雄。 1名。

2月26日、新宮での小仲坊改築慰労会の席上、前鬼林道が開通するまで使われていた牛抱道の古道が話題に挙がり、新宮から帰る日に川島さん宅へ古い地図を受取に行った。

牛抱道は、釈迦ヶ岳の釈迦如来立像を担ぎ上げたオニ雅(岡田雅行)も通った昔からの道で、前鬼川の流域が険しく集落の南にそびえる903mの急峻なピークを越えなければならず、前鬼に住んでいる人が水田と畑の耕作用に小牛を連れて行こうとした時、あまりの急斜面で小牛が歩かなくなり、仕方なく小牛を抱き上げて登ったことからその名前と呼ばれている。

預かってきた地図は、昭和44年の2万5千分の一の地形図で、牛抱道は描かれているが、林道は途中までしかない。この地図をもとに、現在の地形図にウエイポイントを落としとして、GPSに転送して準備をしていた。

行仙宿から21世紀の森までの点検巡視が19日になったため、18日に小仲坊へ寄って、五鬼助さんにお話を伺ってから行仙宿に前泊することにした。

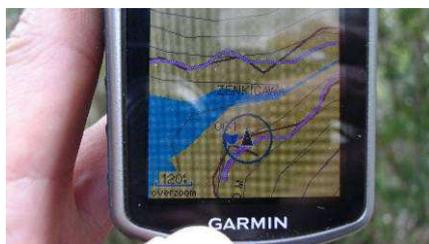
前鬼口から林道に入り、西の谷(不動の湯の看板がある)を渡つてすぐのところは牛抱道の登り口があるはずなので、GPSを睨み

ながらゆっくりと車を進める。

GPSが示している場所に着いているが、山側はモルタル吹き付け擁壁になっていて、登り口など見当たらない。少し広くなっている場所に車を止めて、歩いて確認したが、距離50m位は擁壁が続いている。もうちよつと先か、と思いゆっくりと走ると、コンクリート擁壁が途切れた部分に、桟木と朽ちた土止めが見えた。GPSに登録した場所とは約20m違っていたが、間違いなくここが登り口だと確信した。



西の谷を過ぎて



この辺のはずだが



登り口発見



林道ゲート



積雪路面が続く



ミツマタが咲き始めた

林道ゲートを通ると、路面に積雪が現れる。数日前に降った雪がまだ残っていた。

午後3時前、ミツマタが咲き始めている小仲坊に到着し、五鬼助さんに地図を見て頂いてお話を伺った。

五鬼助さんは、正確には覚えていないと言われたが、登りだしは急斜面、その後のトラバースは植林の境界でネットが張ってある。尾根から前鬼が良く見える場所がある、現在林道の最後の橋のところには昔は木造の橋があった等々、手掛かりとなるお話を聞くことができた。

西の谷付近の登り口が発見できたので、小仲坊での滞在は短時間で済み、GPSのウェイポイントを書き込んだ地図をお渡しして池原に向かった。帰り道で前鬼側の登り口を探してみた。地図に示されている付近にそれらしい場所を確認したが、積雪があったので上部には登らずに、林道からの観察にとどめた。



前鬼側の登り口？

西の谷側を上から

上方の様子

西の谷付近の登り口は普通に走っていると全く気付かない。うっかり通り過ぎてしまい、Uターンして確認に戻った。10m程登って見たら、踏み跡は薄い道らしきものが続いていた。この

様子なら上部への道も必ず残っていると思う。

牛抱道は、五鬼助さんによると牛抱坂が通称で、西の谷から尾根までの急な上り坂をさしているようだが、古道としての価値から前鬼までの道全体を牛抱道と表記した。西の谷の登り口がほぼ確定できたので、近日中の踏査を実施したいと考えている。

池原で「きなりの湯」に入り、少し早いが夕食を済ませて行仙宿に向かう。白谷トンネルの通行止め解除を確認して補給路登山口に到着。山口さんの車となにわナンバーの車2台が止まっていた。ヘッドランプを準備して登り始める、モノレール終点で真っ暗になった。

午後7時20分行仙宿に到着、山口さんと阿倍野の佐藤さんが出迎えてくれた。佐藤さんは先日も行仙宿に泊まれ「明日は地藏岳までピストンして帰る」との事だった。



白谷隧道の通行止め解除確認

行仙宿に到着

行仙宿の宿泊者

発電機を動かし、3人でジョイントマットを敷き詰めた。修復後の発電機は一発で始動、気温が低いためか始動直後は回転数が安定しなかったが、数分後に安定した回転になり、その後約3時

間運転したが何も問題は無かった。

午後11時に消灯して就寝、午前2時半に目が覚め、ストーブにマキを追加、数時間後に山口さんが薪を足してくれたようで、朝まで比較的暖かく過ごすことができた。

明け方の小屋内は6℃、外気温は0℃だった。

行動タイム

前鬼口14:00→14:50前鬼15:10→16:15池原17:30→18:15補給路登山口18:25→19:20行仙宿。
(記・梶野)

南奥駆道(行仙宿)21世紀の森間の点検巡視など

◇実施日：03月19日(日) 晴

◇参加者：梶野照雄、山口泰宏(前泊)。川島 功、橋本 梓、

沖崎吉信、児嶋道夫、生熊敏男・千満子、畑林清子、

上村洋司、竹中卓治。 11名。

20日に実施する計画であったが、天候が下り坂で午後から雨かもしれないとの予報で、春には4日の晴天は望めないと判断し、金曜日に19日(日)に実施変更を参加予定者に連絡した。残念ながら都合で3名が参加出来なくなった。

新宮6時前に沖崎、川島車で出発。上葛川経由で21世紀の森・東屋の駐車場まで川島車を停め、8人が沖崎車に乗り補給路登山口へ。

21世紀の森を過ぎると、路肩・斜面等の所々に残雪があるが路面は乾いている。週明けに相当雪が降った様である。

9日に白谷トンネルの冬季通行止めが解除されたので、整備された跡があり順調に約35分で補給路登山口に着くと、尾鷲の竹中さんが待機されていた。モノレールを動かし川島・沖崎・生熊・児嶋さんが乗り、その他の方は歩いて登る。

モノレール終点上の補給路沿いに少し残雪がある。天気が良いが遠くの山々は春霞で霞んでいる。8時半前に行仙宿に到着し、前泊の山口・梶野さんと合流する。

彼岸でありお供え菓子を取替えて、生熊さん導師で「本日の峰中安全」等の勤行をする。



本日の参加者



佐田ノ辻付近の尾根道



巡視路分岐からの奥駆道

本コースを歩くのは初めての方もあり笠捨山山頂經由班(沖崎・山口・竹中・生熊千)と笠捨山捲道(鉄塔巡視路・旧通信道)班に分かれ、槍ヶ岳手前の26鉄塔で合流することにした。生熊さんは、沖崎車を21世紀の森へ回送して下さることから1人残り、モノレール終点上の補給路を整備して下さる事になり、無線機で交信することにした。



積雪の鉄塔巡視路(旧通信道)を辿る

24鉄塔からの槍・地藏岳

笠捨山撤道（鉄塔巡視路）に入ると、数日前に降った雪が多く残っていて、スパッツを持ってこなかった事を反省する。
この積雪で石も氷付いていて。思い切り踏ないと動かせず、落枝の撤去に留め、5月連休中の補修箇所を見届ける巡視にした。



24鉄塔のベンチで休憩 葛川辻側の巡視路分岐 26鉄塔からの槍ヶ岳

24鉄塔のベンチで小休止後、葛川辻側の捲道分岐で休憩。
川島が担いでいたチェンソーのオイルキャップが外れてオイルが無くなっている、積雪の捲き道で滑り尻餅付いた時に開いたと思われる。

この間に、児嶋さんは笠捨山への奥駈道へ少し上り標識を設置して戻られたが、梶野・上村さんが追いついて来ない。どうしたのだろう、山頂班へ行ったのであろうか・・・。

待合せ場所の槍ヶ岳手前の26鉄塔へと進み、日当たりの良い場所待機していると、約10分遅れて山頂班が到着したが、梶野・上村さんが一緒に来ていない。

生熊さんに無線で両名が戻っていないが確認すると、戻ってないとの返答。

昼食は、地藏岳を越えてからにしたく、沖崎氏が残り11時半迄待って来なければ、戻って両名と合流して行仙宿へ戻る事にし

て、先行（川島・橋本・児嶋・畑林・生熊千・山口・竹中）する。



地藏岳山頂

垂直の鎖場を下りる

残雪の四阿之宿

槍ヶ岳と地藏岳の岩稜鞍部で昨夜同宿した佐藤氏とすれ違う。
地藏岳山頂で小休止し、垂直鎖場を登ったピークで和歌山の3人組（上葛川から登り葛川辻を経て戻る）とすれ違う。

所々残雪の在る地藏岳の難所も無事に過ぎ、四阿之宿と東屋岳（230m）の日当たりの良い尾根道で遅い昼食を始める。約5分強遅れて、沖崎・梶野・上村さんが追いついて総勢10名が揃う。

梶野・上村さんは、捲道の道の悪い箇所を補修しながら来たので遅くなった様である。



陽のあたる東屋岳山頂寄り尾根で昼食

倒木を鋸で切除

13時前に四阿之宿を出発、残雪も無くなる。
山口さんが朽木倒木切除、上村さんは歩行に支障となる枝を剪定で切除して下さる。



剪定で支障の枝切除



鉄塔で休憩



辿って来た笠捨山く地蔵岳

26鉄塔から難所の地蔵岳・東屋岳の撒道の巡視路と出会う、この捲道を歩いた事がないので、一度歩いて見たい。
鉄塔地点で小休止。此処からは笠捨山から地蔵岳を辿って来た奥駈道及び中八人山方面の山並みが一望されたが、釈迦ヶ岳辺りは霞んでいるが真つ白である。



香精山山頂



岩壁・貝吹之野にて



塔の谷峠(貝吹金剛)



古屋の辻



21世紀の森案内板前にて

四阿の宿から古屋ノ辻間に小倒木を3〜4本処理した。
朝の行仙宿辺りでは、非常に寒く感じた風も、21世紀の森へと下る頃には、爽やかで心地良い風になっていた。

15時半に点検巡視を無事終えて下山すると、沖崎車を21世紀の森へ回送して下さった生熊さんに出迎えられた。

案内板前で本行事の終礼と記念撮影をする。

新宮組は、沖崎車で此処から帰宅。補給路登山口に駐車山の山口・梶野・竹中さんは、川島車で補給路登山口に送りとどけ、解散とした。

尚、葛川辻側の笠捨山撒道分岐に「上級者向け」の標識、

この地点からの南奥駈道に、児嶋さん作製の道標を6枚設置した。

行動タイム

新宮5:50→7:00 21世紀の森・東屋7:05→7:40 補給路登山口7:45
→8:25 行仙宿8:45→8:50 巡視路分岐→9:25 24鉄塔9:30→10:25
奥駈道の巡視路分岐10:40→10:55 29鉄塔11:10→11:35 地蔵岳
11:40→12:13 四阿之宿(東屋岳)12:55→13:08 檜之宿跡→13:20 鉄
塔13:30→13:35 香精山→14:00 貝吹之尾根14:05→貝吹之野14:15
→14:20 塔の谷峠→15:08 古屋ノ辻→15:30 21世紀の森・東屋
15:40(新宮組帰宅)→16:15 補給路登山口(解散)。

(記：畑林。写真：川島・梶野)